

姫路城



姫路城の楽しみ方

姫路城シルバー観光ガイド

城内を巡りながら姫路城の歴史や謎をご紹介します。

■個人ガイド（お客様のご要望に合わせてご案内）
《料 金》3,000円（ガイド1名につき10名まで・1時間45分まで）

■日本語定時ガイド（見所をダイジェストでご案内）
《実施日》土・日・祝日
《案内時間》①10：00～11：45 ②13：00～14：45
※城内の混雑具合により変動する場合があります
《料 金》1名1,000円

《受付場所》チケット販売窓口横「シルバー観光ガイド受付窓口」
《お問合せ》姫路城シルバーガイド詰所 TEL：079-288-4813

姫路城音声ガイド

姫路城の歴史と魅力を音声でご案内！
各スポットについての音声解説をお持ちのスマートフォンでお楽しみ下さい。

《料 金》無料
※お持ちのスマートフォンでインターネットに接続し、「HP姫路城便覧」にアクセスする必要があります。
※音声読み上げご利用時にかかるパケット通信料はお客様のご負担となります。
※ご利用に際しては、イヤフォンのご使用をお願いします。
お持ちでない方は、資料室にて100円（税込）で販売しております。
※マナーモードを解除してお使いください。



姫路城連立天守群にて七彩の雲に包まれた
彩雲ライトアップを
実施しております。



- CO₂排出量が60%削減
- 至高の白色ライトアップ
白漆喰が最も美しく映える色温度で照射
- 季節に応じた特別演出
大天守上部を純白、天守群下部を淡い2色のメインカラーと指し色のアクセントカラーで照らします
- アウェアネスデー
さまざまなシンボルカラーで、医療や福祉などを啓発します

照明デザイン：鶴石井幹子デザイン事務所

姫路城の白漆喰が最も映える白色ライトアップを日没～午前0時まで実施。また、毎日午後8時と9時からそれぞれ15分間、カラーLED照明により、季節に応じた特別演出を行います。
また、社会運動への支援や賛同のメッセージを発信するため、特定日にはさまざまなシンボルカラーでライトアップし、医療や福祉などを啓発しています。



◎料金

区分	18歳以上(市民) ^{※1}	18歳以上(市民以外)	18歳未満 ^{※2}
姫路城縦覧料	1,000円	2,500円	無料
姫路城・好古園 共通縦覧料	2,600円		
姫路城年間縦覧料	5,000円		

※1 マイナンバーカード・運転免許証等の提示が必要。 ※2 18歳に達した日から最初の3月31日までにある者を含む。

◎開城時間 9時～16時（閉門は17時）※季節により開城時間が延長となる場合があります。

◎休城日 12月29・30日

姫路城へご来城される場合、事前に姫路城デジタルチケットを購入しておくこと、指定時間にスムーズに入城することができます。



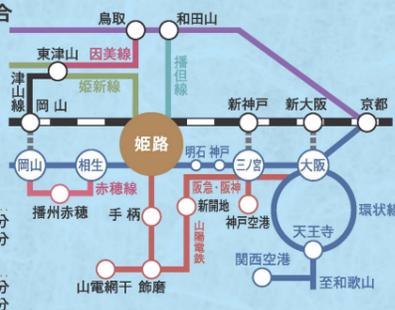
販売サイト

- ・従来の紙チケットは、当日入城券として有人窓口や券売機でも引き続き販売していますが、混雑状況により販売しない時間帯が発生する場合があります。
- ・デジタルチケットは、改札口への円滑な案内を目的としており、城内が混雑している際の優先的な見学を保証するものではありません。

●新幹線沿線主要駅から



●電車でお越しの場合



●お車でお越しの場合

【大阪・神戸方面から】
阪神高速3号神戸線 → 第二神明道路 → 加古川バイパス → 姫路バイパス → 姫路南ランプ降車
中国自動車道 → 山陽自動車道 → 山陽姫路東IC 降車

【岡山・広島方面から】
国道2号線 → 姫路バイパス → 姫路南ランプ降車
山陽自動車道 → 山陽姫路西IC降車または、夢前スマートIC

●飛行機でお越しの場合

関西国際空港から空港リムジンバスで約2時間
大阪国際(伊丹)空港から空港リムジンバスで約1時間20分
神戸空港からポートライナー+JRで約1時間

世界遺産・国宝 姫路城

姫路城は、日本で現存する最大の城郭建築であり、巧妙な縄張りや多様な石垣、連立する大天守・小天守、櫓、門などの全てに日本の城の魅力が凝縮されています。

平成5年12月、奈良・法隆寺地域の仏教建造物とともに、日本で初めてユネスコ（国際連合教育科学文化機関）の「世界遺産（文化遺産）」に登録され、平成27年には、5年半にわたる大天守保存修理工事を終え、グランドオープンを迎えました。

姫路城の特徴である連立式天守と白漆喰総塗籠の優美な姿は、別名「白鷺城」とも言われています。

姫路城の主な出来事

- 1333年(元弘3年) 赤松則村(円心)、姫山に砦を築く。
- 1346年(貞和2年) 赤松貞範、姫山に本格的な城を築く。
- 1577年(天正5年) 羽柴秀吉、播磨侵攻。
- 1580年(天正8年) 黒田官兵衛孝高、城を秀吉に献上。
- 1581年(天正9年) 秀吉、3重天守の姫路城を築く。
- 1600年(慶長5年) 池田輝政が城主に。
- 1601年(慶長6年) 輝政、姫路城大改築を始める。
- 1609年(慶長14年) 5重7階の連立式天守完成。
- 1617年(元和3年) 本多忠政、伊勢国桑名から入封。
- 1618年(元和4年) 忠政、嫡子忠刻とその室千姫(徳川秀忠長女)のために西の丸を造営。
- 1749年(寛延2年) 酒井忠恭、上野国前橋から入封。
- 1868年(明治元年) 酒井忠邦、版籍奉還を申し出。
- 1873年(明治6年) 姫路城、存城が決定。
- 1910年(明治43年) 明治の大修理始まる。(～1911年(明治44年))
- 1951年(昭和26年) 姫路城天守など8棟、国宝に指定。
- 1956年(昭和31年) 大天守等の解体修理(昭和の大修理)始まる。(～1964年(昭和39年))
- 1993年(平成5年) 日本初の世界遺産に登録。
- 2009年(平成21年) 大天守の保存修理工事始まる。(平成の修理)(～2015年(平成27年))
- 2015年(平成27年) 姫路城グランドオープン



昭和の大修理



天空の白鷺(平成の修理)



◆姫路城データ

国	宝	大天守、西・乾・東小天守、イ・ロ・ハ・ニの渡櫓の8棟
重要文化財	櫓・渡櫓27棟、門15棟、土塀32棟の計74棟	
形式	平山城	
敷地	内曲輪(うちくるわ)内は23ha 外曲輪(そとくるわ)内は233ha	
大天守の高さ	海拔91.9m (姫山45.6m、石垣14.8m、建物31.5m)	
大天守の構造	5重7階	
	「重」は、外観の屋根の数	
世界遺産登録	平成5年	

城内の見どころ

美しさ

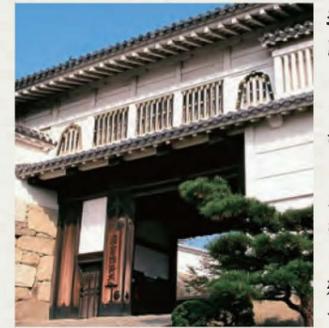
白漆喰の城壁と大天守。三つの小天守が、お互いを引き立て合うように重なり合い、千鳥破風や唐破風などの装飾が華やかさを演出しています。壮大なスケール感と繊細さを合わせ持つその景観をご覧ください。

連立式天守



大天守を守るように東、西、乾(いぬい)の三つの小天守が渡櫓で結ばれて連立している、「連立式天守」が完全な形で残っています。

菱の門



城内で最も大きい門。両柱の上の冠木(かぶき)に木彫りの菱の紋があることからこの名前が付けられました。火灯窓(かとうまど)など安土桃山時代の優雅な雰囲気を残した意匠が特徴です。

白漆喰総塗籠

漆喰(消石灰に糊を混ぜた壁塗りの材料)で木地が見えないように覆い塗る手法。火災に備えるとともに、築城の頃に普及していた火縄銃の射撃によって延焼しないように採用されました。

強さ

姫路城には、戦いへの備えを意識した仕掛けが多く見られます。城内はまるで迷路のように入り組んだつくりになっており、なかなか大軍では侵攻することができません。またさまざまな防御設備が施されています。攻め手の気持ちになって見学すると、守りの城としての実用性の高さを感じていただけます。

狭間



櫓や土塀などの壁面に開けられた穴で、長方形で弓を射る矢狭間と円形や三角形などの鉄砲狭間があります。防御設備である狭間が整然と配置され美しい景観をつくりだしています。姫路城には約1,000か所の狭間が残っています。

石落とし



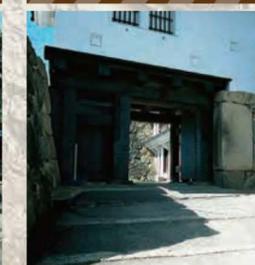
石垣を登ってくる敵に石を落としたり、鉄砲を撃ったりできる仕掛け。天守閣のほか、塀や櫓にも多数施されています。

城内道

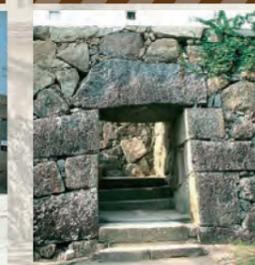


城内道は迷路のようになっており、枝分かれする道や鉄扉のついた頑丈な門、一人がやっと通れるような抜け穴のような門など、敵を容易に大天守へ到達させない様々な工夫があります。

門



扇の門



扇の勾配



上にいくほど反り上がるような形状の石垣になっており、開いた扇の曲線に似ていることからこの名がつけられました。敵を容易によじ登らせないための工夫だといわれています。